

学校検尿における国立病院、国立療養所の役割

森 和 夫¹⁾ 西牟田 敏 之¹⁾

国立医療機関の腎疾患医療における役割りを考えるにあたり、先ず学校検尿に果たしている役割りについて調査した。回収率約85%で、半数が学校検尿に何らかの形で参加していた。地域の学校検尿のシステム化とそれへの参加を望む意見が多かった。

学校検尿、国立病院・療養所

はじめに

腎疾患の治療、療育には、生涯ケアとして一貫した体制と地域における包括的な医療体制作りが必要であることはいままでもない。国立病院は地域にあって中核的な医療機関としての役割りを果たしてきたし、また国立療養所はその他に、小児慢性疾患施設として小児慢性腎疾患患児を入院させ、併設せる養護学校とともに教育と一体となった医療を行ってきた実績がある。このことは今後も国立医療機関として果たすべき役目であるが、腎疾患医療をになう重要な一環となるべきであると考えられる。

今回その実態を把握し今後の方向づけの一助とするために、先ず国立医療機関が、現在の学校検尿に果たしている役割りについて調査したので報告する。

方 法

全国国立医療機関の中、国立病院は全病院

国立療養所は、精神、らいを除く全施設に対し葉書によりアンケート調査を行ない集計した。アンケート内容は表1のごとくである。Q4は自由記載とした。

結 果

回答は183施設からあり、回収率は84.3%であった。

Q1、学校検尿への参加については、表2のごとくである。病院が約半数、療養所は約30%であった。療養所はそれぞれ特徴的な機能を持ち、小児医療に関係ない機能のところもあるので、そういう施設は当然参加していないという回答になる。

Q2、参加の方法は表3のごとくである。第1次は、多く検査機関で実施されているので、参加が殆どないのは当然であろう。多くは第3次乃至第4次から参加しており、精密検査施設としての役割りを果たしている。第4次はさらに精密な診断、腎生検を含む検査

¹⁾ 国立療養所下志津病院

が要求されるので国立病院の方が多かった。地区の委員会、学校検尿判定委員会などに参加しているのが13施設あった。これは前回の研究班の報告にあったように、委員会を組織しシステム化できている地域が全国的にもすくなくなかったことより見て決して少ない数ではないと思う。

63年度に実施された学校検尿の結果入院してきた患者は表4のごとくである。施設のまままでの実績と地域の特異性により偏りがみられるが、少ない数ではないと思う。内容の調査は行なわなかったが、記載されているものでは多くは検査入院であった。

学校検尿に参加しない理由については表5に示す。病院として対応できないというのは、国立病院にあっては小児科医の数が少ないというのが多く、療養所では機能が適当でない、例えば脳卒中、リハビリを病院機能としているなどの理由が多かった。市町村、地域医師会と関係ができないというのが約15%に見られた。今後開かれた医療機関として地域との関係を取ることが望まれる。その他の多くは、要請がないということであり、要請があれば協力するという付記のあった回答もあったが、一層の地域との連絡を密にすることとともに、少なくとも小児慢性施設にあってはさらに積極性が要求されるのではないかと考えられた。

学校検尿参加の予定は表6のごとくであり前問と関連あると思われる。

その他の意見として主なものをあげたのが表7である。学校検尿のシステム化ができていない地域が多く、システム化を望み、された場合は積極的に参加したいという意見があった。

まとめ

今回の調査により、学校検尿に積極的に参加している施設もかなり見られたがなお偏りがあり、地域のシステム化とともに、第3次、第4次精密検査機関としての病院間の相互関係が必要であると考えられた。

その際、小児慢性施設として、長期入院の小児を入院させている療養所は、集団検尿から始まる腎疾患医療の重要な一環を担っていくべきと考えられる。今後の方向付けとしての私見を表8に示した。

表 1

<p>貴施設と学校検尿についてお伺いします</p> <p>Q 1、貴院は地域の学校検尿のシステムに参加されていますか？</p> <p>①いる ②いない</p> <p>Q 2、いると答えた方</p> <p>①どのような形で参加されていますか</p> <p> ②第1次検尿から</p> <p> ③第3次精密集団健診から 院外 院内</p> <p> ④第4次精密担当病院として</p> <p> ⑤地区の学校検尿委員会に参加している</p> <p>②関わっておられる地域を記載下さい</p> <p>()</p> <p>③63年度学校検尿有所見者で貴院に入院された患者数は？ 名</p> <p>Q 3、いないと答えた方は</p> <p>①その理由は</p> <p> ②病院として対応できない</p> <p> ③地域市町村と連携できない</p> <p> ④地区医師会との連携ができない</p> <p> ⑤その他()</p> <p>②今後、学校検尿に参加する予定がありますか？</p> <p> ③ある ④ない</p> <p>Q 4、その他、御意見をお聞かせ下さい</p>
--

表2 学校検尿への参加

	実数		%	
	実数	%	実数	%
国立病院	いる	42	54.5	
	いない	35	45.5	
国立療養所	いる	29	27.4	
	いない	77	72.6	
計	183	(84.3)		

表4 63年度学校検尿入院者

	国立病院	国立療養所	計
0名	16	13	28
1～5名	23	10	33
5名以上	3	6	9

表3 学校検尿参加の方法

	国立病院		国立療養所		計	
	実数	%	実数	%	実数	%
第1次検尿から	2	4.8	2	6.9	4	5.6
第3次検診から	21	50.0	18	62.0	39	54.9
第4次精検から	25	59.5	9	31.0	34	47.9
地区の委員会に参加	6	14.2	7	24.1	13	24.3

表5 学校検尿に参加しない理由

	国立病院		国立療養所		計	
	実数	%	実数	%	実数	%
病院として対応できない	16	45.7	38	49.4	54	48.2
地域市町村と連携できない	0	0	5	6.5	5	4.5
地域医師会と連携できない	5	14.3	5	6.5	10	8.9
その他(要請がない等)	15	42.9	31	40.3	46	41.1
計(複数回答)	35		77		112	

表7 その他の意見

- 1、地域の学校検尿のシステム化ができていない
- 2、腎生検は、他病院または大学に依頼しなければならぬ
- 3、学校検尿の委員会に参加したいがその方法が分からない
地域のシステムがあるかどうか分からない
- 4、国立病院であるため院内学級があったが、学級数を減らした
- 5、第3次精密検診は費用がかかるので受診率が低くなっている
- 6、癌、循環器などの専門機関となっているので対応できない
- 7、医師会で対応している依頼がない。
- 8、小児科医がいらない
- 9、養護学校があり腎疾患児は入院しているが学校検診には参加していない
- 10、地域の要請があれば、積極的に参加していきたい
- 11、地域の学校検尿のシステムを第3次を含めシステム化すべきである

表6 今後、学校検尿参加の予定

	国立病院		国立療養所		計	
	実数	%	実数	%	実数	%
ある	12	34.3	13	16.9	25	22.3
ない	23	65.7	64	83.1	87	77.7
計	35	100.	77	100.	112	100.

表8 今後の方向付け

- 1、地域の学校検尿のシステム化が出来ていない地域が多い。
その為、医師会、市町村と積極的に接触して関与すべきである。
- 2、少なくとも第3次検診（院内、院外を問わず）からシステムとして参加すべきである
- 3、国立病院、国立療養所を連携して、腎生検も可能な第4次精密検診機関として位置づけるべきである
- 4、養護学校を併置し、小児慢性を扱っている療養所は、地域の学校検尿に積極的に関与して、さらに小児腎疾患治療の地域のシステムの中核となるべきである



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



国立医療機関の腎疾患医療における役割りを考えるにあたり、先ず学校検尿に果たしている役割りについて調査した。回収率約 85%で、半数が学校検尿に何らかの形で参加していた。地域の学校検尿のシステム化とそれへの参加を望む意見が多かった。